

## 4. 川崎港にすむ生きものたち



### 4-1 魚介類（魚やエビ・カニ、貝など）

魚やエビ・カニ類、貝類などをまとめて魚介類といいます。水族館でもおなじみですね。川崎の海には、意外とたくさんの魚がすんでいます。ここで紹介する魚は、漁師さんが魚をとるときと同じように船を使い、深い場所を大きな網でひいた

り、人が岸の近くの浅い場所を網で引いたりしてつかまえたものです。海から上がってきた網をのぞいてみると、大きなスズキや小さなテンジクダイ、海底にすんでいるハゼやカレイの仲間が入っていました。さあ、みたことがある魚はいるかな？



# 魚類



《ホシザメ》  
分布は北海道以南の日本各地。口がとがっており、体に白点がある。



《ドチザメ》  
分布は北海道以南の日本各地。背面が灰色で、体にはぶち状斑や暗色横帯がある。



《アカエイ》  
南日本沿岸に分布し、砂泥底に生息する。尾びれには棘がある。



《サツパ》  
内湾や河口域に生息する。プランクトンを餌としており、5~6月頃に岸辺の浅所で産卵する。



《コノシロ》  
河口域や内湾に生息する。主に珪藻やカイアシ類などのプランクトンを餌としている。



《カタクチイワシ》  
沿岸から沖合いの表層を群泳し、カイアシ類や珪藻などのプランクトンを食べる。



《トウゴロウイワシ》  
南日本に分布。沿岸で普通に見られる魚。



《ゴンズイ》  
本州中部、富山湾から南に分布する。胸びれと背びれに毒棘をもち、口のまわりには8本のひげがある。写真ではわかりにくいですが、体は黒色に黄色のしま模様がある。



《ワニエソ》  
南日本に分布する。40cmくらいまで成長する。大きくするどい歯をもち、魚、イカ、エビ類を食べる。



《カサゴ》  
沿岸の岩礁域に生息する。全身に茶色の斑点があるが、個体によって色は様々。ひれにたくさんの棘がある。成魚は甲殻類、小型魚類のほかヒザラガイ類やフジツボ類などを食べる。



《メバル》  
沿岸の岩礁域に生息する。成魚は小型魚類、エビ・カニ類、ゴカイなどの多毛類を餌とする。



《クロソイ》  
浅海の岩礁底に生息する。魚類、甲殻類などを餌とする。



～みつかった場所～

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

注) 3ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。

# 魚類



《ムラソイ》



北海道南部から南の各地に分布。体の色は変化に富む。沿岸の浅い岩礁域に生息する。



《サラサカジカ》



和歌山県～函館、新潟県佐渡に分布。浅海の藻場に多い。



《アイナメ》



日本沿岸各地に分布し、底生性で沿岸の岩礁域や砂利底に生息する。ワレカラ類、ヨコエビ類、ゴカイ類、小型魚類などを食べる。



《スズキ》



北海道南部から南の日本沿岸に分布し、近海の瀬のある岩場に生息する。主に魚類や甲殻類を食べる。



《シマイサキ》



中部日本から南に分布し、内湾、沿岸浅所や河口の汽水域に多い。稚幼魚は内湾や河口域に多い。底生の小動物や小魚を食べる。



《クロサギ属の一種》



沿岸内湾域および河口域の砂地に生息する。



《メジナ》



北海道南部から南に分布。浅い円形の産卵床をつくる。



《テンジクダイ》



北海道から南に分布し、内湾から水深 100m 前後の砂泥底に生息する。雄は口の中で卵を守る。



《シロギス》



北海道北部と沖縄を除く日本各地に分布し、内湾～沿岸の砂泥底に生息する。主に甲殻類やゴカイ類を食べる。



《マアジ》



北海道から南の日本各地に分布し、回遊性で、主に沿岸からやや沖合の中底層に生息する。



《マルアジ》



南日本、東シナ海に分布し、内湾からやや沖合に生息する。



《ニベ》



東北沖から南に分布し、近海の泥底に生息する。

～みつかった場所～

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

注) 3 ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。

# 魚類



《シログチ》 ● ● ●  
宮城県から南に分布し、100m 以浅の砂泥底に生息する。



《ウミタナゴ》 ● ● ●  
北海道中部～九州の日本各地に分布し、ホンダワラなどの海藻が茂った岩場に多い。



《ボラ》 ○ ● ●  
北海道から南に分布し、沿岸の浅い場所に生息する。産卵のため外洋へ回遊を行う。



《ツバメコノシロ》 ○ ○ ●  
南日本に分布し、主に内湾の砂泥底に生息する。



《ギンボ》 ○ ● ○  
北海道南部～長崎・高知県に分布。体色は様々に変化する。潮間帯やタイドプールに生息する。



《ダイナギンボ》 ○ ● ○  
岩礁域の潮間帯に生息し、石の下や岩の間に潜む。肉食性。



《イソギンボ》 ○ ● ●  
下北半島から南、奄美大島以北の日本各地に分布。タイドプールに生息する。



《イダテンギンボ》 ○ ● ●  
南日本に分布する。岩礁海岸に見られる。



《ナベカ》 ○ ● ●  
北海道南部～九州南部に分布。沿岸の岩礁性海岸、タイドプールに最も多い普通種。オオヘビガイの殻や岩穴に生息する。



《ハタタテヌメリ》 ● ○ ●  
石狩から南の各地沿岸に分布し、水深 40m 前後の砂泥底に生息する。



《アカハゼ》 ● ○ ○  
北海道～宮崎県、山口県に分布し、内湾の泥底に生息する。



《マハゼ》 ● ● ●  
北海道～種子島に分布。内湾・河川の汽水域の砂泥底に生息し、淡水域にも侵入する。

～みつかった場所～

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

注) 3 ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。

# 魚類



《スジハゼ》

●●●  
全国に広く分布し、沿岸の浅い海域から河口の汽水域に生息する。動物食。産卵期は夏で、テッポウエビの巣穴の中や貝殻などの下に産卵する。



《ミズハゼ》

○●○  
北海道西南部～九州南部の日本各地に分布。岩礫性の潮間帯、潮溜まり、河口域の礫間、転石下に生息する。



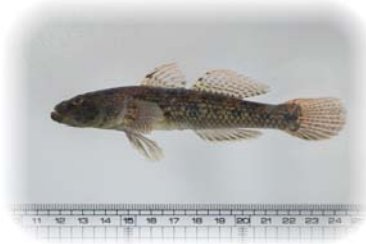
《ドROME》

○●●  
北海道～九州に分布。潮溜まりに生息する。



《ウキゴリ属の一種》

○●○  
ウキゴリは日本沿岸の汽水域に生息する大型のハゼ。成魚は川に生息する。



《ウロハゼ》

○●●  
茨城県・新潟県から南の本州、四国、九州に分布し、種子島にも生息する。川の河口域や汽水湖に生息する。



《アカオビシマハゼ》

○●●  
北海道～九州に分布。内湾や汽水域にも見られる。



《アカカマス》

●●○  
琉球列島を除く南日本、東シナ海～南シナ海に分布。沿岸浅所に生息する。



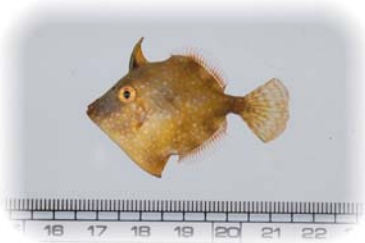
《メイタガレイ》

○●●  
北海道南部から南に分布し、水深 100m 以浅の砂泥底に生息する。



《マコガレイ》

●○●  
北海道南部～大分県に分布し、水深 100m 以浅の砂泥底に生息する。成魚はゴカイなどの多毛類、甲殻類、二枚貝類などの底生動物を食べる。



《アミメハギ》

●●●  
青森県から南の日本各地に分布し、水深 20m 以浅の沿岸に生息する。体は平たく、体色は個体によって変化に富む。



《クサフゲ》

○●○  
青森県～沖縄に分布し、水深 50m 以浅の内湾の岩礫域、砂礫底、藻場に生息する。体は小さい棘におおわれる。



《ヒガフゲ》

○●○  
北海道から南の各地に分布。水深 100m 以浅のホンダワラの生えている沿岸の岩礫や藻場に生息する。筋肉は無毒、精巢は弱毒、皮と腸や肝臓などの内臓に毒がある。

～みつかった場所～

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

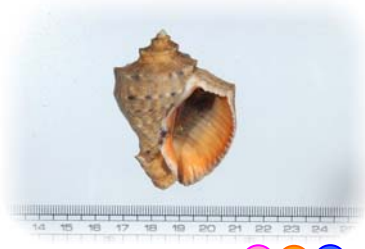
注) 3 ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。

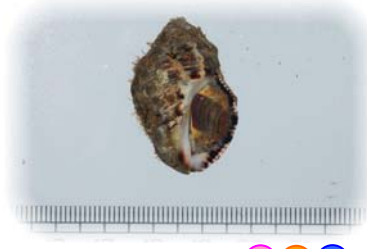
## 魚類以外の生きもの



《コシダカガンガラ》 ●○○○  
日本全国に分布し、潮間帯の岩礫上に多い。殻高 3cm。空は厚く堅く、ややふくれた円錐型。軟体は黒っぽく、海藻を食べている。



《アカニシ》 ●●●  
北海道南部から南に分布し、水深 10~20mに多くすむ。殻高 15cm、殻径 12cm。大型で、こぶし状をしている。砂泥底に生息し、他の貝を食べる。



《イボニシ》 ●●●  
北海道南部に男鹿半島から南に分布し、潮間帯の岩礁に生息する。殻高 3cm、殻径 1.8cm。カキ類を好み、殻に酸で穴を開け、中の肉を食べる。



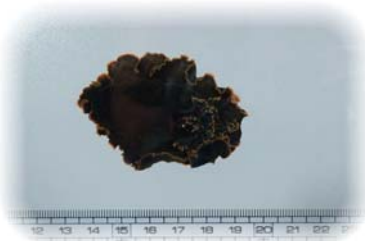
《ウミフクロウ》 ●●●  
日本全域に分布する。体長は 10cm程度まで。海岸から少し深い海底に生息する。



《アラムシロガイ》 ●●○  
北海道南部から南の各地に分布し、内湾潮間帯の砂泥地に生息する。殻高 1.7cm、殻径 0.9cm。他の生物の死がいやさをさがし求めて這い回る。



《フレリトゲアメフラシ》 ●○○○  
相模湾から南に分布し、海岸に生息している。体長 9~12cm。からだ中がやわらかいとげのような突起におおわれている。貝殻はない。



《クロシタナシムウシ》 ●●●  
日本のほぼ全域に分布。体長 50cmまで。



《カラマツガイ》 ●●○  
三陸の南から九州に分布し、岩礁潮間帯上部に生息する。殻高 5mm、殻径 19mm。



《クイチガイサルボウ》 ●○○○  
房総半島から九州に分布。潮下帯上部の細砂泥底に生息する。殻長は 7.5cm、殻高は 6cm。丸みを帯びた箱形。



《アカガイ》 ●○○○  
北海道南部から九州の内湾に分布する。殻長 12cm、殻高 9cm。水深 10~50mくらいに生息する。



《ホトギスガイ》 ●●●  
北海道南部から九州に分布し、潮間帯から水深 10mまでの泥底に生息する。殻高 7mm、殻長 2.2cm。大発生をすることがある。



《ムラサキガイ》 ●●●  
全世界の温帯域に分布。地中海原産で、1920年代以来日本に定着した。港湾のブイや漁網、防波堤などに密集して付着している。

~みつかった場所~

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

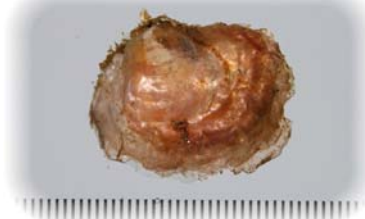
注) 3ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。

# 魚類以外の生きもの



《ミドリイガイ》 ●●●  
 東南アジア原産で、1980年代以来日本に定着した。東京湾から南の潮間帯から水深10mの地物に付着する。殻高:13mm、殻長3cm。



《ナミマガシワガイ》 ●○○○  
 北海道南部から南に分布。水深20m以上の浅の岩礫底に生息する。殻長は4cm。



《マガキ》 ●●●  
 日本全土に生息。汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底でしばしばカキ礁をつくるほか、滞のような所の泥底では長大な形に生育する。殻高15cm。



《ウスカラシオツガイ》 ●○○○  
 東京湾や瀬戸内海で確認されている。南関東では少なくとも1990年代の初頭に東京湾の湾奥部で確認され、現在では浦賀水道(東京湾口)にまで分布を広げている。



《ホンビノスガイ》 ●○○○  
 1990年代中頃に、東京湾湾奥部の人工海浜で小型の幼貝が確認された。チェリーストーンと呼ばれる。



《アサリ》 ●○○●  
 北海道から九州に分布。潮間帯中部から水深10mの砂礫泥底に生息する。殻高2.7cm、殻長4cm。



《トリガイ》 ●●●  
 北海道を除く各地に分布する。殻長、殻高ともに9cm。内湾の水深5~30mくらいのところに生息するが、足でとびはねるようにして泳ぐこともある。



《カワゴカイ属の一種》 ●○○●  
 日本各地に分布。全国の淡水の流入する河口域や干潟の潮間帯に生息する。体長5~15cm。釣餌として、利用される。



《ウロコムシ科の一種》 ●○○○  
 全国の岩礫性海岸の潮間帯から水深50mくらいまでに生息する。



《イワムシ》 ●○○○  
 全国の内湾性の岩礫帯や転石帯に生息し、やわらかい泥岩などに穴をほって生息していることもある。



《ヒメコウイカ》 ●○○○  
 北海道南部から九州南部に分布し、砂泥底に生息する。



《ジンドウイカ》 ●○○●  
 北海道南部から南の日本各地に分布する。沿岸域に多く、内湾にも入ってくる。

~みつかった場所~

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

注) 3ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。

## 魚類以外の生きもの



《ユビナガスジエビ》 ● ○ ●  
日本各地の汽水域に分布している。体長約4cm。



《サルエビ》 ● ○ ●  
日本特産で、津軽海峡から九州に分布する。体長10cm。内湾、内海沿岸性の種である。



《エビジャコ属の一種》 ● ○ ●  
エビジャコは日本特産種で東京湾から九州西岸に分布する。内海、内湾の浅海に多く生息する。



《イソスジエビ》 ○ ○ ●  
日本南西部では岩礁海岸のタイドプールなどに普通にみられる。体長は約5cm。



《コボヨコバサミ》 ● ○ ○  
日本沿岸に広く分布する。水深数十mまでの浅海に生息。アカニシ、ナガニシなどに寄居。



《ユビナガホンヤドカリ》 ● ○ ○  
日本の温帯域に広く分布し、内湾の潮間帯から浅海にかけて生息。ウミニナ、カニモリガイなどに寄居。内湾の汀線付近や河口などに、しばしば多数群がっていることがある。



《ケアシホンヤドカリ》 ● ○ ○  
日本の温帯域に広く分布。岩礁潮間帯に普通にみられる。スガイ、イシダタミガイ、クボガイ、コシダカガンガラなどに寄居。



《イボイチョウガニ》 ● ● ○  
北海道から南に分布する。甲幅5cm。水深30~100mに生息する。



《モクズガニ》 ● ○ ○  
北海道から沖縄に分布。各地の河川に生息。甲長56mmまで。はさみ脚に長い軟毛の束が密生するのが特徴。



《ヒライソガニ》 ● ● ○  
北海道南部から南に分布し、どこの岩礁海岸でも見られる。甲幅2.5cm。色変わりが多く、小さなカニでは真白なものもいる。



《ケフサイソガニ》 ● ○ ●  
北海道から南に分布。内湾の砂泥質の磯に多く生息する。甲幅3cm。イソガニと間違えやすい。



《イソガニ》 ● ● ●  
北海道から南に分布。内湾または岩石まじりの磯の潮間帯に生息する。

～みつかった場所～

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

注) 3ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。



## 魚類以外の生きもの



《ヨツハモガニ》



日本全沿岸に分布し、岩礁の潮間帯から水深 15m 程までの浅海に生息する。甲幅 3 cm。雄のはさみ脚は強大。海藻を切り取って甲面につける習性がある。



《イッカクモガニ》



海外からの移入種である。大型貨物船のバラスト水に混ざって東京湾に持ち込まれたと考えられている。日本近海では、東京湾や伊勢三河湾、大阪湾などの大型内湾で多くみられる。



《イシガニ》



東京湾から南に分布し、岩礁、干潟から水深 30cm くらいに生息する。甲幅 8 cm。



《台湾ガザミ》



相模湾から南に分布し、水深 20～30m に生息する。殻幅 15cm。オスとメスで色やハサミの形が大きく違う(写真はメス)。



《フタホシイシガニ》



仙台湾から南に分布する。甲幅 3 cm。



《ヒメガザミ》



東京湾から南に分布する。ガザミ類としては小型。甲幅 3 cm。水深 30～80m に生息する。



《ジャノメガザミ》



東京湾および秋田県から南に分布する。甲幅 12 cm。甲らには白で縁取られた赤褐色の斑紋が 3 つある。



《シワオウギガニ》



男鹿半島・房総半島から沖縄諸島に分布。潮間帯転石下に生息する。



《マルバガニ》



東京湾から南に分布する。甲幅 4 cm。水深 35～100m に生息する。



《ケブカエンコウガニ》



房総半島から南に分布する。甲幅 3 cm。内湾の水深 30～100m の泥底に生息する。



《シャコ》



北海道から九州まで分布する。体長 15 cm。内湾の潮間帯～水深 30m 付近に多く、泥底に穴を掘って生息する。



《マヒトデ》



北海道から九州に分布し、浅海およびやや深所に生息する。

～みつかった場所～

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

注) 3 ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。

## 魚類以外の生きもの



《イトマキヒトデ》



北海道より九州まで分布する。浅海岩礁または砂泥底に生息する。体には赤いまだら模様がある。腕の間の切れ込みは浅い。



《スナヒトデ》



北海道南部から南に分布する。5つの腕をもつが、切れて再生途中の腕を持つことがある。比較的浅海からやや深い砂泥底に生息する。



《マナマコ》



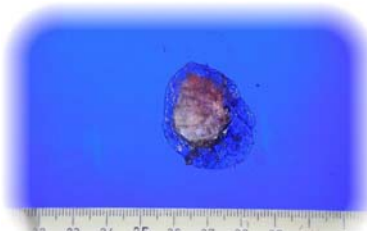
北海道から九州に分布し、浅海の転石帯に生息する。体長は一般に10～30cm。



《サンショウウニ》



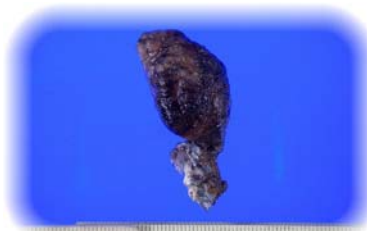
東京湾に分布し、潮間帯～潮下帯に生息する。殻径約4cm。



《ドロボヤ》



北海道オホーツク海沿岸を除く各地に分布する。体長4.5cm程度まで。水深5～200mの砂泥底に見られる。



《シロボヤ》



国内では陸奥湾から南の日本海岸と房総から鹿児島湾にいたる太平洋岸に分布する。体長は通常7cmまで。潮下帯に生息し、富栄養化した内湾にも普通に見られる。

### ～みつかった場所～

●【外海エリア】 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】

注) 3ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

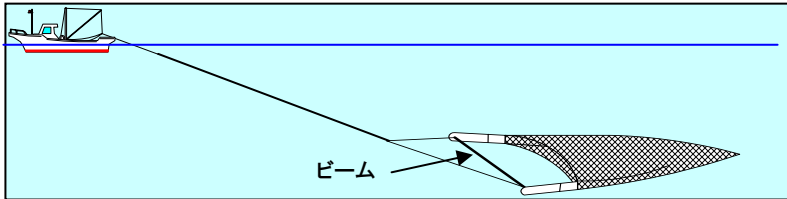
- ※ 一部の生物は国外にも分布しますが、ここでは日本国内での分布のみを記しています。
- ※ このほか、魚介類調査では本章に示した種以外にも確認されています。

# 魚介類調査のようす

## 【底びき網】

よこ おお ひろ がた あみ うみ  
横に大きく広がったきんちやく型の網で海  
そこ きかな  
の底をひき、魚をとらえます。網の口を開け

ておくための“ビーム”の幅は6.5mほどです。



## 【投網・刺網・手網・小型地びき網】

きし ちか あさき ぼしよ ちようさいん  
岸に近くて浅い場所は、調査員がいろいろな  
あみ 網をつかい、さかな  
魚をとらえました。浅い場所は、

さかな さんらん せいいく ば  
魚たちの産卵や成育の場となっているため、お  
まへ ちい さかな  
となになる前の小さな魚たちがたくさんとれました。



とあみ 投網



てあみ 手網



さしあみ 刺網



こがたじあみ 小型地びき網

# ～コラム 1.～

## 希少な生きもの

水産資源の持続的利用のため、水産庁は1998年に「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」を取りまとめました。このデータブックに記載のある「Ⅰ. 軟体動物(海産貝類)」のアカニシとアカガイ、そして「Ⅶ. 剣尾・甲殻類」のモクズガニの3種は、今回の川崎港の調査で出現しており、それぞれ以下のカテゴリに分類されます。また、川崎港の近傍の多摩川河口干潟では、東京湾で危急種に分類されるトビハゼ(Ⅱ. 海産魚類)が生息しており、注目を集めています(神奈川県レッドデータブックでは絶滅危惧ⅠB類)。

川崎港魚介類調査でみつかった水産庁データブックに記載がある種

種名	絶滅危惧種	危急種	希少種	減少種	減少傾向	普通
アカニシ				○		
アカガイ				○		
モクズガニ					○	



アカニシ



アカガイ



モクズガニ



トビハゼ

泥干潟の上をピョンピョン跳ねながら移動し、小さなカニやゴカイを捕まえて食べます。水の中にはあまり入りませんが、体が乾くと死んでしまうので、ときどき一回転して体に泥をぬる行動がみられます。冬は巣穴で越冬し、えさも食べません。神奈川県レッドデータブックでは「絶滅危惧ⅠB類」に登録され、多摩川と鶴見川で見つかっています。